

総大会に備える

イエス・キリストはニーファイ人を訪れられたとき、御自分のメッセージを聴き、理解できるように心を備えるよう招かれました（3ニーファイ17：3参照）。もしあなたが同じことをしていたら、総大会の経験はどのようなものになるか想像してください。

1. 以下のリソースを研究し、総大会で主のメッセージを受け入れる備えをする方法を見つけてください。印象に残った言葉に印を付けてもよいでしょう。

モーサヤ2：9；教義と聖約88：63

ラッセル・M・ネルソン大管長は、次のように教えています。



「皆さんは、今日と明日、引き続きこの説教台から真理を聞きます。どうぞ、自分の注意を引いた思いや、頭に浮かんで心に残ったことを書き留めてください。主に祈って、聞いたことが真実であるという確認を求めてください。」（ラッセル・M・ネルソン「何が真実か」『リアホナ』2022年11月号、30）

大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は、次のように教えています。



「この大会で話す神の僕たちについてわたしはよく知っています。彼らは神の子供たちにメッセージを伝えるよう神から召されています。主は彼らについてこう言われました。『主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであって、わたしは言い逃れをしない。たとえ天地が過ぎ去っても、わたしの言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就する。わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。』（教義と聖約1：38）

学び、悔い改めて、主が求められることを行って行きたいという目的を持って耳を傾けるとき、皆さんは主を信頼していることを示していることとなります。神を信頼して、この大会のあらゆる説教、歌、祈りの中に主のメッセージを求めて耳を傾けるならば、それを見いだせるでしょう。そして、行って主が望んでおられることを行うならば、神を信頼する力は強くなり、やがて主が自分を信頼してくださっていることを知って感謝の念に満たされるでしょう。」（ヘンリー・B・アイリング「神を信頼し、行って行う」『リアホナ』2010年11月号、73）

当時大管長会の一員だったディーター・F・ワークトドルフ管長は、次のように教えています。



「総大会に向けて準備するとき、自分が答えを必要としている質問について深く考えるようお勧めします。例えば、直面している難題に関して主の指示や導きを切に望んでいる人もいます。」

特定の祈りへの答えが、特定の話によって、あるいは具体的な言葉によって直接与えられることがあります。また、関連がないように思われる言葉や歌を通して与えられることもあるでしょう。人生で受けている祝福への感謝と、勧告の言葉を聞いてそれに従いたいという真剣な望みで心を満たすとき、個人の啓示への道が備えられます。」（ディーター・F・ワークトドルフ「総大会—特別な祝福」『リアホナ』2011年9月号、4）

2. 学んだことから、総大会で主の声を聴く備えをする方法のリストを作ります。
3. 総大会で主の声を聴く備えをする方法を、ほかにも幾つか挙げます。